

第24回地域福祉実践研究セミナー IN 愛知・半田

ワークショップ 第2

地域の防災・減災活動から見えてきた「地域福祉」

-
- 実践告者 宮路町町内会自主防災 沢田ミカさん
半田市社会福祉協議会 減災地域ささえあいセンター 水野節さん
半田市総務部防災交通課 防災減災担当 深川芳行さん
- アドバイザー 日本福祉大学 山本克彦さん
早稲田大学・日本地域福祉研究所 大島隆代（本資料作成者）
- 社協担当 半田市社会福祉協議会 徳山勝さん

参加者状況

1. ワークショップ（第2） 2018年9月1日
地域の防災・減災活動から見えてきた「地域福祉」
(雁宿ホール2階 視聴覚室)
2. 参加者人数と内訳
45名（福祉施設・事業者：4、社協：9、
学生：13、民児協1、個人1、
報告者・講師・スタッフ17名）

ワークショップの目的

■ 地域防災は特別な取り組みではなく、普段行っている「ふくし」の活動が災害にも強い町づくりや防災につながるということを、半田市の実践を交えて伝え合う機会とする

■ さまざまな地域福祉活動を共有し、明日からの実践に活かす。さらに、地域や仲間で行えることをやってみようという気持ちになってもらう



半田市観光協会HPより





ワークショップの様子

(左：山本克彦さんの講話　右：コミュニティを知るワーク)

ワークショップの展開方法

I. 講話「災害地での福祉の現状」

II. シンポジウム

半田市における市民・社協・行政の取り組み

III. ワークショップ

1. グループをひとつの番地、この部屋をコミュニティに見立てて、お互いを知ろう
2. 被災地や避難所での生活課題を想像し共有しよう
3. どんな対応が考えられるかを話し合い、できることをあげていき、明日からの各自の実践を公言しよう

結 果 (1)

講話とシンポジウムの内容を確認し合い、半田市における現状と課題を整理することができた。

- ・ 行政や社協などさまざまな資源との連携により展開・継続している自主防災組織の事例がある
- ・ 半田市の総合支援型社協のしくみを活かした常設型の災害ボランティアセンターが始動している
- ・ 行政による自主防災組織への支援と市民への啓発などの先駆的な取り組みがある

結 果 (2)

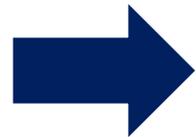
ワークによりお互いの立場やアイディアを共有することで、明日からの実践につながられると気づくことができた。

- 協働していくファクターの位置づけや実践について改めて知ることができた
- 住民、民間組織、社協、行政など、今までお互いの理解が及ばなかったところの生の声を共有した
- そのうえで、明日から実践できることを考えることができた

考察（１）

（他の地域や場面でも応用できること）

地域福祉と防災・減災は乖離したものではなく、地域の課題を我が事にしていくきっかけになるのではないか。



参加者の声

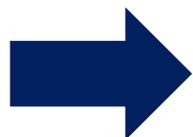
「事例での地域の自主防災組織の取り組みそのものが日頃の“地域福祉”なのだと気づいた」

「うちの地域でも避難所運営訓練をやってみようか」

考 察 (2)

(他の地域や場面でも応用できること)

市民、行政、社協、さまざまなセクターが防災・減災の実践を切り口として協働の土壌を創っていくことができるのではないか。



参加者の声

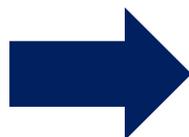
「社協や役所でも、地域での防災活動の相談に乗ってくれたり、一緒に考えてくれるんだ」

「自分の住んでいる地域には知らなかった資源や人がいた。つながれるかもしれない」

考察（3）

（他の地域や場面でも応用できること）

グループのメンバーで話し合うことで、コミュニティでの実践プロセスのダイナミクスを体現することができたのではないか。

 参加者の声

「グループワークをしていて、知らない土地で少しずつ顔見知りが増えていくような感覚になった」

「何かに取り組むには、お互いを分かろうとしないと」

結論 ・ 今後の展望（課題）（1）

【実践の側面からの課題】

住民の様子や地域性等により実践の方法やプロセスには違いがでてくるだろうが、まずは、お互いの思いを再確認しつつ、さまざまな要素・資源・セクターがつながることが求められる。特に、グループワークから見えてきたダイナミクスなどは一般化できる過程であったともいえよう。

結論 ・ 今後の展望（課題）（2）

【理論・体制の側面からの課題】

例えば、厚生労働省からも、災害時の広域かつ組織的な福祉支援体制の提言が出されている。そのような体制整備との関係で、日常の地域での具体的な実践との連動性を構造的に考えていくこと、また、自主防災のような住民活動と体制との橋渡しをしていく機能が必要になってくる。圏域設定やシステム構築、機能の役割分掌の明確化などが、より求められるだろう。